

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年11月6日

【評価実施概要】

事業所番号	0970500484
法人名	社会福祉法人久寿福祉会
事業所名	グループホームおしはらの里
所在地	栃木県鹿沼市縦山町40-2 (電話) 0289-60-2002

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成21年9月25日	評価確定日	平成21年11月6日

【情報提供票より】(平成21年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	8 人	常勤5人, 非常勤3人, 常勤換算8人	
	8 人	常勤5人, 非常勤3人, 常勤換算8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1階建ての1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	17,600 円	その他の経費(月額)	
敷金	有(100,000円)		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 200 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成21年4月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	8 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 歳	最低	78 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	あきばクリニック、鈴木クリーン歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿沼市南部の例幣使街道沿いに位置する当ホームは、近隣には小学校やスーパーマーケット、周辺には田園地帯が広がる環境に恵まれた場所にある。敷地内にはデイサービスセンター、学童保育があり、ホームも含めて3つの建物が中庭を囲むように配置されている。リビング続きで広いウッドデッキがあり、リビングからも外に出やすくなっている。訪問時には、ウッドデッキで休んでいる入居者の姿を見ることもでき、開放的な空間づくりがなされている。自己評価時には職員の異動もあったが、定期的に職員会議が開催されており、速やかな申し送りがなされている。介護計画の評価方法、質の向上にも意欲的に取り組んでいる他、ホーム主催の芋煮会、バーベキュー等に地域住民に参加を呼びかけるなど地域との交流を深めているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>過去の自己評価や外部評価の結果から理念(介護方針)を作成したり、地域住民を招いた行事を開催するなど、地域住民との関係づくりに取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、管理者及び計画作成担当で作成した。評価結果は職員会議等報告し職員全員に周知する予定である。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議のメンバーは、入居者家族代表、自治会長、地域包括支援センター職員、市担当職員等で構成されている。会議では、ホームの活動報告や外部評価の報告等を行っている。運営推進会議での協議や意見交換により、地域住民を招待して実施している行事の開催に結びつけることができ、会議を運営に活かしている。また、地域の情報を得る機会としても利用している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>重要事項説明書に、ホームの苦情受付担当者及び責任者、第三者委員の連絡先を明記している。家族からは面会の際に意見や要望等を聞くようにしており、出された意見や要望等については申し送りに記入し、職員会議等で改善に向けた話し合いを行っている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入している。ホームで開催する芋煮会やバーベキュー等の行事に地域住民も招待し、参加もしてもらっている。小・中学校の運動会や納涼祭等の地域のお祭りなどにも積極的に出かけている他、同敷地内にデイサービスセンターや学童保育もあり、地域住民との交流が図られている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者が中心となって職員間で話し合いを行い「利用者を受容するケア、利用者のニーズをさぐり実現に向けたケア、事故のない安全な生活」という介護方針をつくりあげ、事業所の理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	以前は申し送り時などに、理念の復唱などを職員全員で行っていたが、現在は回数が減少していることから、管理者及び職員は理念の共有のあり方についての検討をしている。	○	理念における職員間の意識を再確認すると共に、理念の共有方法についても検討を行い、理念の実践により入居者の支援につながるよう期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。ホームで開催する芋煮会やバーベキュー等の行事に地域住民も招待し、参加してもらっている。小・中学校の運動会や納涼祭等の地域のお祭りなどにも積極的に出かけている他、同敷地内にデイサービスセンターや学童保育もあり、地域住民との交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	過去の自己評価や外部評価の結果から理念（介護方針）を作成したり、地域住民を招いた行事を開催するなど、地域住民との関係づくりに取り組んでいる。今回の自己評価は管理者及び計画作成担当者で作成した。評価結果は職員会議等報告し職員全員に周知をする予定である。		

グループホームおしはらの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーは、入居者家族代表、自治会長、地域包括支援センター職員、市担当職員等で構成されている。会議では、ホームの活動報告や外部評価の報告等を行っている。運営推進会議での協議や意見交換により、地域住民を招待して実施している行事の開催に結びつけることができ、会議を運営に活かしている。また、地域の情報を得る機会としても利用している。	○	運営推進会議のメンバー選定を議題により変えてみるなど、更に地域との関わりを広げていくために、運営推進会議でホームの活動状況や取り組みを説明し、近隣の学校や自治会等からの協力体制を構築していくことに期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者は運営推進会議への参加の他、管理者が窓口になり連絡や相談を行っており、市担当者との連携を図っている。	○	市担当者と連携を強化していくために、ホームでの行事の日程等を早めに知らせ、少しでも参加してもらえるような取り組みに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の生活状況や健康状態については、家族の面会時や電話等でその都度知らせている。金銭管理については、預かり金の記録を申し出があったときに確認してもらっている。職員の異動については、家族の面会時等に紹介をしている。	○	家族に入居者の暮らしぶり等を知らせる手段の一つとして、広報誌の発行に向けた検討を期待したい。また、預かり金の報告方法についても検討することに期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に、ホームの苦情受付担当者及び責任者、第三者委員の連絡先を明記している。家族からは面会の際に意見や要望等を聞くようにしており、出された意見や要望等については申し送りに記入し、職員会議等で改善に向けた話し合いを行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動については法人で行っており、半年毎に異動の可能性がある。職員の異動等があったときには、引継ぎに時間をかけ、周りの職員がカバーしながら入居者に影響がないように配慮している。		

グループホームおしはらの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内での勉強会を行っており、外部研修については、受講後に伝達講習も行っている。外部研修への参加については、法人からの推薦や認知症介護実践研修などについては順番で受講している。	○	人材育成の観点から経験年数や能力等を考慮した研修体系の構築により、すべての職員が能率的に研修へ参加できるような取り組みに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入している。また、近隣のグループホームで構成する連絡会にも加入しており、同業者との情報交換やネットワークづくりに取り組んでいる。	○	更にサービスの質を高めていくためにも、近隣のグループホームとの相互訪問を行い意見交換を行う等、職員同士で交流が持てるような取り組みに期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居にあたっては、見学等とおして事前に本人や家族等から要望や質問を聞き、不安がないように心がけている。職員や他の入居者や場の雰囲気に慣れてもらうために日中の数日間通い体験利用を実施している他、要望があれば泊まりの体験入居の受入れも検討しており、徐々にホームになるよう支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の出来ることに配慮しながら、一緒に食事の準備や片付けをしたり、近くを散歩したりして季節の話、植物の名前や育て方、地域の名所、美味しいお店などに耳を傾け教えてもらうことで、本人と共に過ごし支え合う関係を築いている。		

グループホームおしはらの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、入居者への日常生活における見守りをおして、本人の意向を把握するように努めている。また、意向の表出が困難な入居者へは、今までの生活歴を参考にするなど、本人の思いをできるかぎり応えていけるよう支援している。生まれた家や行き付けのパン屋に出かけたこともある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成にあたっては、入居者本人、家族、計画作成担当者、職員で話し合い、本人や家族の意向や職員の気づき等を考慮した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しについては、半年を目安に定期的な見直しをしている。入退院時には家族、医療機関からの情報をもとにして柔軟な計画の見直しを行っている。見直しの際には、地域包括支援センター職員等の助言も受けられる体制となっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接する同法人のデイサービスセンターのレクリエーションに参加したり、また、その日に話題で出たお店等買い物に出かけたりと、行事でない外出の機会をつくる等、多機能性を活かした柔軟な支援に努めている。		

グループホームおしはらの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院は基本的に家族が付き添うこととなっているが、家族の状況や必要性に応じて職員も同行しており、入居者の情報提供書を作成して適切な医療を受けられるよう配慮している。隣接する同法人のデイサービスセンターの看護師とも連携を図っており、時々体調確認のための巡回をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族とは入居時に重度化した場合の対応方法の話し合いを行い、方針についての共有を図っている。実際に重度化した場合には協力医療機関とも相談しながら、利用者の状態に沿った支援を行っている。医療行為や食事の摂取状況などを踏まえ、ホームでの生活継続の可否を検討しているが、体制が整えば重度化や終末期に対応していきたいと考えている。	○	重度化や終末期における対応については、家族と話し合いを重ね、共通認識を確認し合い、今後は、本人や家族の希望に沿った支援ができるような体制づくりに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ホームの理念でもある介護方針で「利用者を受容するケア」を掲げており、入居者を尊重して接するよう心がけている。個人記録などは事務室内の外から見えない鍵のかかる場所にて保管している。夜間は、宿直1名、夜勤1名の体制で入居者の支援をおこなっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかなスケジュールはあるが、入居者一人ひとりの意思を尊重して、出来るだけその人にあったペースで支援できる態勢になっている。ゆったりとした外出支援など希望に添った支援にできるかぎり努めている。		

グループホームおしはらの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食時のおかずだけは、業者に委託をしている。入居者の出来ることに配慮しつつ、一緒に盛り付けをしたり、片付け、洗い物をしたりしている。職員も入居者と一緒に同じ物を食べている。入居者の希望により嗜好の支援もしており、晩酌をする入居者もいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日10：00から15：00の時間帯で職員の支援により行っている。希望があれば夜間の入浴も可能である。入浴回数については、1日置きに入浴できるように支援している。浴室には浴槽が2つあり仲が良い方同士で入浴する方もいる。日曜日は希望する入居者のみの入浴を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や片付け、洗濯物を干したりたたんだり、掃除など入居者の出来ることに配慮しながら家事の場面をつくったり、カラオケ、晩酌など気晴らしや楽しみごとの支援も行っている。隣接する同法人のデイサービスセンターで行われているレクリエーションに参加することもある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行事的な外出は週1回行っており、泊まりがけで出かけることもある。また、買物や散歩、草取りなどの外出の機会を日常的に取り入れており、ホーム内の出入りは自由になっている。ホームの庭も足に優しい素材で舗装されていたり、車椅子等でも散歩しやすい環境になっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にはセンサーチャイムが付いているが、職員の見守り等により、基本的には日中は全ての鍵をかけていない。また、リビングから外のウッドデッキ部にも自由に出られるようになっている。訪問時にも自由に入出入りされている入居者の姿が見られた。		

グループホームおしはらの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災や地震等の災害に備えて、年1回の消防署員立ち合いの避難訓練を含め、年間で計6回の防災訓練を行っている。避難場所は、近隣にある小学校である。	○	近隣小学校が避難場所となっていることから、日頃の訓練においても地域の消防団や地域住民への参加・協力依頼等の関係づくりを行い、有事の際に協力を得られる体制の構築を期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が、栄養バランスやカロリー計算をした献立表を作成している。昼食時のおかずは業者に委託している。職員は入居者の食事摂取量を毎日確認しており、水分摂取量についても把握しており、食事時以外にも適宜水分補給を促している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは広くとられ開放感があり、ソファなどを置いて入居者が思い思いに過ごせる空間になっている。和室部分など所々にホウキが掛かっていたり、古いカーテンでテーブルセンターを作ったり、季節感や生活感のある空間づくりをしている。不快な音や光、臭いなどは無く、空調も適切に管理されており、居心地のよい共用空間づくりがなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が安心して生活できるように、本人や家族等に入居時には必ず使い慣れた家具や食器等の生活用品、思い出の品物等を持参してもらうように説明している。入居者はそれぞれに筆筒や着物、写真など馴染みの物、使い慣れたものを持参しており、居心地よく過ごせる居室づくりがなされている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。